

神経障害性疼痛治療薬(Ca²⁺チャネルα₂δリガンド)フォーミュラリ

2025.03.01

推奨	推奨薬		オプション	
一般名	プレガバリン		ミロガバリン	
代表的な製品名	GE:プレガバリン錠,OD錠	先発:リリカカプセル,OD錠	GE:なし	先発:タリージェ錠,OD錠
標準的な1日薬価	43. ⁶ ~66. ⁸ 円(300mg/日)	182. ² 円(300mg/日)	-	309. ⁶ 円(30mg/日)
効能・効果	神経障害性疼痛、繊維筋痛症に伴う疼痛		神経障害性疼痛	
用法	1日2~3回経口投与		1日2回経口投与	
用量	<p>〈神経障害性疼痛〉 通常、成人には初期用量としてプレガバリン1日150mgを1日2回に分けて経口投与、その後1週間以上かけて1日用量として300mgまで漸増する。なお、年齢、症状により適宜増減するが、1日最高用量は600mgを超えないこととし、いずれも1日2回に分けて経口投与する。</p> <p>〈繊維筋痛症に伴う疼痛〉 通常、成人には初期用量としてプレガバリン1日150mgを1日2回に分けて経口投与、その後1週間以上かけて1日用量として300mgまで漸増した後、300~450mgで維持する。なお、年齢、症状により適宜増減するが、1日最高用量は450mgを超えないこととし、いずれも1日2回に分けて経口投与する。</p>		<p>通常、成人には、ミロガバリンとして初期用量1回5mgを1日2回経口投与し、その後1回用量として5mgずつ1週間以上の間隔をあけて漸増し、1回15mgを1日2回経口投与する。なお、年齢、症状により1回10mgから15mgの範囲で適宜増減し、1日2回投与する。</p>	
特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・帯状疱疹後神経痛や糖尿病性末梢神経障害に伴う疼痛といった末梢性神経障害性疼痛に対する適応を有した後に、脊髄損傷後疼痛といった中枢性神経障害性疼痛に有効性が認められ、適応症が「神経障害性疼痛」に拡大承認された。 ・禁忌薬はなし、併用注意薬も比較的少ない ・後発品が存在し経済性にも優れている ・「繊維筋痛症に伴う疼痛」の適応を有している 		<ul style="list-style-type: none"> ・神経障害性疼痛薬物ガイドライン改訂第2版追補版にてプレガバリンと同様に使用できると記載された。 ・プレガバリンの副作用等で使用できない場合の代替薬となる 	
腎障害	<p>神経障害性疼痛の1日用量(初期用量を含む)として、()内は繊維筋痛症の場合の用量</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Ccr≧60:150~600mg(150~450mg) ・30≦Ccr<60:75~300mg(75~225mg) ・15≦Ccr<30:25~150mg(25~150mg) ・Ccr<15:25~75mg(25~75mg) <p>*詳細は添付文書参照</p>		<p>1日投与量(初期用量を含む)として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・60≦Ccr<90:10~30mg ・30≦Ccr<60:5~15mg ・Ccr<30:2.5~7.5mg <p>*詳細は添付文書参照</p>	

有効性・安全性

・本フォーミュラリは、各種ガイドライン等の情報をもとに作成した。

推奨の理由

・有効性・安全性、各薬剤の特徴を考慮し、推奨とした。

推奨薬以外の神経障害性疼痛治療薬

オプション、適応外使用の薬剤として以下の薬剤情報を参照いただきたい。

○ミロガバリン:糖尿病診療ガイドライン2019では糖尿病性末梢神経障害疼痛に対して並列で推奨されている。また、がん性疼痛の薬物療法に関するガイドライン2020ではピデンスへの言及はないが鎮痛補助薬として並列されている。

○ガバペンチン:診療報酬支払基金の審査において「神経障害性疼痛」に対して300~900mg(最大2400mg)1日3回分割投与での使用が認められているが、添付文書上での神経障害性疼痛の適応を有していない。フォーミュラリの対象外とした。

<参考文献>

・日本フォーミュラリ学会 モデルフォーミュラリ

・日本ペインクリニック学会、神経障害性疼痛薬物治療ガイドライン改訂第2版追補版